



# 附中だより

2018年11月21日

第10号

宮城教育大学附属中学校

〒980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目4番1号 電話 022-234-0347 FAX022-234-0301 <https://fu-cyuu.miyakyo-u.ac.jp/>

## 公開研究会 無事終了

本校全職員の日頃の研究の成果を発表する機会である公開研究会が、生徒たちのがんばりや保護者の方々の御協力のおかげで無事終了しました。当日は、たくさんの先生方や学生に参観していただきました。生徒たちもいつもの力を十分に発揮することができました。

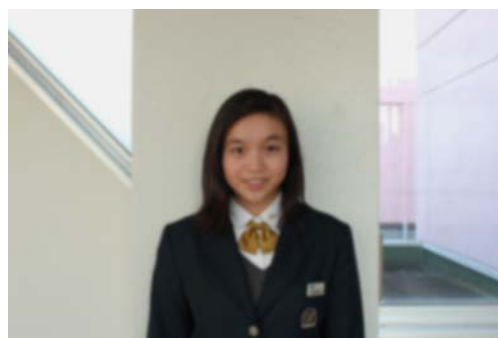
職員一同、今回の研究会を振り返り、いただいた御指導や御助言のもと、次年度の公開研究会に向けて早速研究に励みたいと思います。さらに、研究だけではなく、目の前の生徒たちの安心・安全を第一に考え、日々の取り組みをしっかりと行っていききたいと思います。



## 受賞の記録

3年2組	中島さん	第56回宮城県中学校弁論大会 優秀賞
3年3組	安達さん	平成30年度宮城県中学校柔道優秀選手
ソフトテニスサークル男子		第17回仙台市青葉区中学校ソフトテニス団体錬成会男子研修リーグ 第3位
1年3組	菅原・村山ペア	平成30年度仙台市中学校ソフトテニス一年生錬成会 第5位

去る11月6日(火)に多賀城市立第二中学校で開催された第56回宮城県中学校弁論大会において、演題「負けない生き方」を発表した3年中島さんが優秀賞を受賞しました。裏面で、実際に発表した弁論文を紹介します。



優秀賞を受賞した3年 中島さん

## 負けない生き方

「頭が痛い…。」

中学一年生の秋、私は、激しい頭痛の発作に襲われました。いてもたってもいられず、あまりの痛みに過呼吸を起こすほどでした。また、痛みと同時に、なぜか左の手足に思うように力が入りませんでした。やっと辿り着いた病院で診断された病名は、「片麻痺性片頭痛」。その後、激しい痛みが治まっても、手足の筋肉に軽く麻痺が残ってしまいました。これまでと同じように力が入らない手足は、私を恐怖に陥れるには十分で、大きな失望を感じました。

当時私は、チアダンスに熱心に取り組んでいました。ようやく選抜メンバーにも選ばれ、その主軸として踊ることに大きな興奮と喜びを感じていました。しかし、病が私を襲ったのは、丁度その喜びの最中のこと。痛みが去ってからも、握力は発作前の三分の一程度までしか戻らず、私は、チアダンスの一番の見せ場である、手足の俊敏さや力強さを失いました。当然、チアダンスのポジションは目立たない場所となり、十三歳の私は病を恨み、トップで踊る友人を羨み、チアダンスから逃げてしまいました。

当時の私が一番恐怖を抱えていたのは、再び片頭痛の発作が起これば、麻痺の症状が更にひどくなるかもしれない、ということでした。万が一歩けなくなったら…と最悪のシナリオばかりが、自分の頭の中を埋め尽くしていました。その怖さは、私から一つのことへ一生懸命に取り組むことの大切さを取り上げてしまいました。他人と比較し、自分の置かれた状況を嘆くだけで、できない言い訳ばかりを探す、ずるい自分に甘んじていたのです。

そんな日々を過ごす中で、私は一人の女性と出会いました。その女性とは、マララ・ユスフザイさんです。彼女は、2014年に女性の教育の必要性を訴え、ノーベル賞を史上最年少で受賞しています。何より、私と同年代でノーベル賞を受賞していることに強く興味をひかれました。

医師を目指し、日々一生懸命学んでいた彼女の人生を悪夢が襲います。マララさんは、2012年10月、スクールバスの車内でパキスタンタリバンの武装兵に襲撃されます。その際、頭部と首に二発の銃弾を受け、一時は重体となりますが、奇跡的に命を取り留めたのです。

私の病気とは、比べものにならないほどの恐怖と痛みを乗り越えた彼女は、その後も、今この瞬間も、恐怖に負けることなく、自らの思いを訴え続けています。

そんな彼女の生き方は、私に大きな衝撃と勇気を与えてくれました。病気に負け、内にこもることで自分を守ろうとする弱い私に、彼女の生き抜こうとする姿は力をくれたのです。

新たな力を得た私は、昨年夏から、駅伝大会に出場するために挑戦を続けていました。今年は残念ながら、選手にはなれませんでした。最後まで全力を尽くすことができました。過酷な練習をやり抜くことができました。病の恐怖に、打ち勝つことができたのです。

今も私は頭痛の発作を抑えるため、薬を服用し続けています。しかし、薬の力では発作を完全に抑えることはできず、先月、四度目の発作が私を襲いました。今、私の左手は本を持つことすらできません。恐怖が私の心を飲み込みそうになります。でも、そんな弱い私に私は負けません。他人を羨むのではなく、自分と向き合うこと、今の自分にできることに精一杯取り組んでいく。その確かな歩みの一步一步が、いつか、誇れる自分へ繋がっていくのだと、私は信じています。